

弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想

目次

	頁
第1章 基本構想 総論	1
第1 基本構想策定の趣旨	2
第2 地区の現況，課題，位置付け	3
1 地区の現況	3
2 地区の課題	12
3 上位計画，関連計画における地区の位置付け	13
第3 歴史まちづくりの基本方針	17
1 基本理念	17
2 地区の歴史まちづくりの視点	17
3 施策の大綱	21
第2章 基本構想 各論	25
第1 魅力ある歴史的建造物の復元整備	26
1 復元整備を進める歴史的建造物	26
2 復元整備活用方針	27
第2 歴史の感じられる歩行者空間の形成	31
1 回遊性向上の方針	31
2 道路景観整備の方針	33
3 義公生誕の地の有効活用に向けた考え方	37
4 弘道館東側用地の有効活用に向けた考え方	38
5 案内板等の整備方針	39
第3 中心市街地のにぎわいと交流の創出	40
1 回遊性を高める機能強化と魅力づくりの推進	40
第4 歴史的景観の保全と形成	42
1 歴史的景観の保全	42
2 歴史的景観の形成	43
3 歴史的資源の適切な保護，保存	43
第5 推進体制の充実	44
1 歴史まちづくりに向けた推進体制の方針	44

第 1 章 基本構想 総論

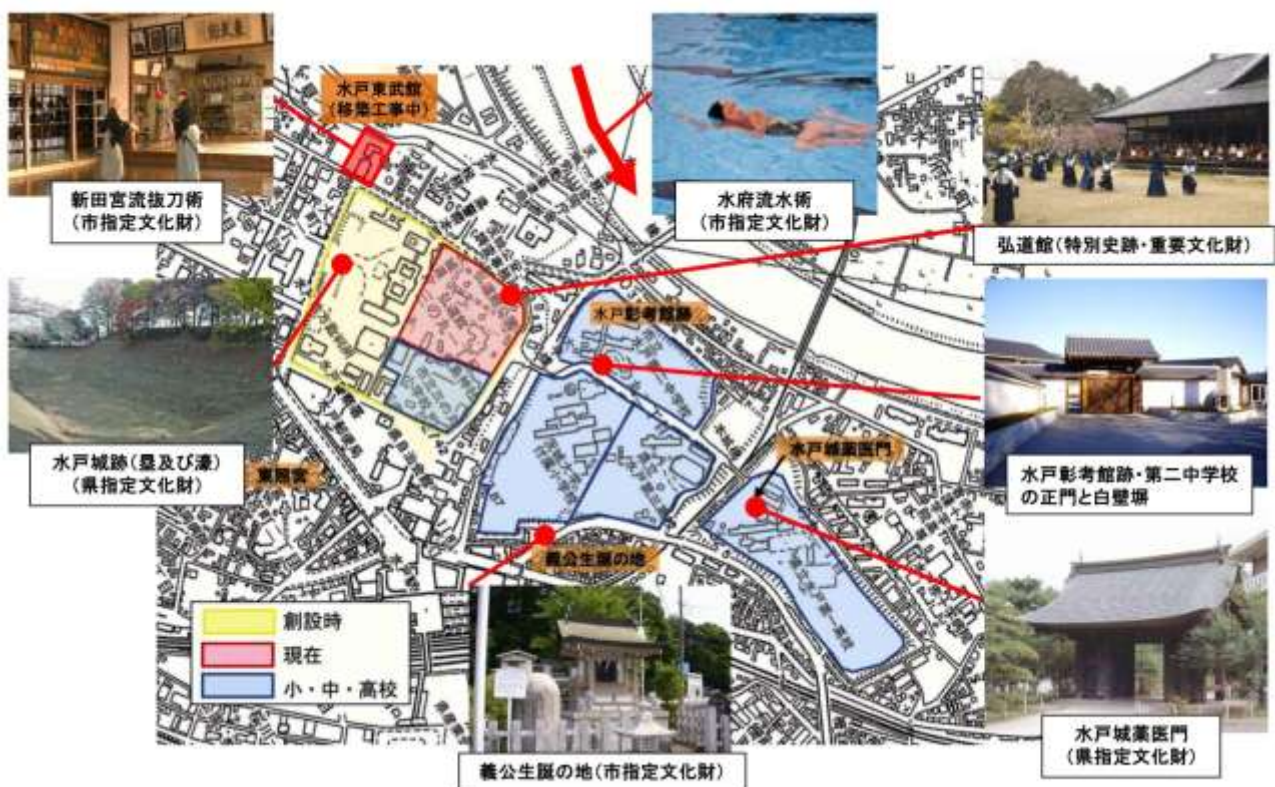
第1 基本構想策定の趣旨

弘道館・水戸城跡周辺地区には、世界遺産を目指す弘道館をはじめ、橋詰門（薬医門）、水戸彰考館跡、義公生誕の地など、水戸城の歴史を伝える豊かな歴史的資源が現存し、また、北辰一刀流剣術や新田宮流抜刀術、水府流水術など、弘道館の精神を反映した人々の活動が受け継がれているなど、関東でも有数の城下町の名残を今にとどめています。また、小中学校や高校など、多くの教育機関が立地するなど、文武不岐の伝統を偲ばせ、学問の府・水戸を象徴する重要な地区です。

このように水戸の歴史の象徴でもある本地区の歴史的魅力を高め、多くの人が訪れる歴史まちづくりを推進していくことは、市民の郷土愛の醸成や郷土への誇りを育むとともに、中心市街地のにぎわいを創出し、活性化を図っていく上でも必要です。

本市としては、平成22年に国の認定を受けた歴史的風致維持向上計画に基づき、歴史的景観の保全・形成を図るとともに、大日本史編さんの地・水戸彰考館跡に立地する第二中学校の校舍改築にあわせ、歴史的景観に配慮した正門や白壁塀、二の丸展示館の整備等を推進してきたところです。

本基本構想は、これらの礎のもと、水戸市第6次総合計画に位置付けた水戸の顔にふさわしい歴史まちづくりを総合的に推進するため、基本構想総論においては、本地区の歴史的景観を磨き、輝かせ、多くの人が来訪する魅力ある空間形成を目指した歴史まちづくりの基本方針を定めるとともに、基本構想各論においては、必要な施策を定めるものです。



文武の伝統が息づく弘道館・水戸城跡周辺地区の現況

第2 地区の現況、課題、位置付け

1 地区の現況

(1) 自然的特性

水戸城は那珂川と桜川に挟まれた馬の背状の台地（通称上市台地）先端部に位置します。この地は常陸国の中原に位置し、常陸府中（石岡市）から陸奥に向かう途上の陸上交通の要であるとともに、桜川・那珂川・那珂湊を結ぶ水上交通の要地でもあり、水戸城は中世初頭より、地域の覇権を目論む豪族・大名の居城として利用されました。

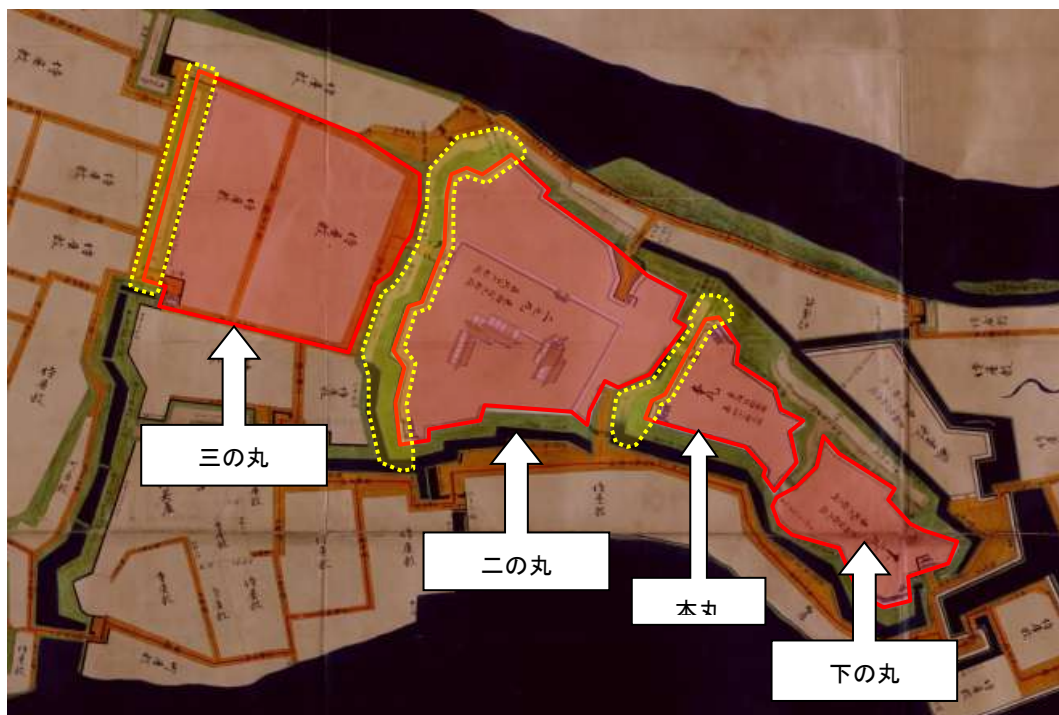
地質的には、上市台地は那珂川によって形成された河岸段丘の一つで、第三紀に形成された泥岩の水戸層を基盤とし、その上に第四紀の地層が不整合に堆積しています。水戸層の上には粘土・砂から構成され貝化石を含む見和層が、その上には那珂川が運んできた礫から構成される上市層、灰白色の常総粘土層、関東ローム層が順に堆積しています。台地と沖積地との比高は24～25mです。

(2) 歴史的特性

ア 国内最大級の土造りの城

主郭部分は上市台地の地形を利用し、四つの曲輪を構築しました。西から下の丸、本丸（現水戸第一高等学校）、二の丸（現第二中学校、水戸第三高等学校、茨城大学教育学部附属小学校）、三の丸（現弘道館、三の丸小学校、県庁三の丸庁舎他）と呼称されます。

それぞれの曲輪には土塁と堀切が設けられていましたが、特に本丸、二の丸、三の丸、それぞれの北西に設けられた土塁と堀切は壮大で、国内最大級の土造りの平山城として知られています。



近世水戸城の縄張と土塁・堀（「常陸国水戸城絵図」より）

イ 水戸城内の建造物

水戸城内の建造物を知る絵画資料として、「常陸国水戸城絵図」（国立公文書館内閣文庫所蔵）及び「水戸城実測図」（茨城県立図書館所蔵）が今に伝わっています。

「常陸国水戸城絵図」は正保元(1644)年、三代将軍徳川家光の命により、各藩が幕府に提出した、いわゆる「正保城絵図」の一つです。城絵図には城下町を含む城郭全体の広大な範囲がよく描かれ、城郭としての防御施設の姿図や寸法、堀や土塁、石垣の規模が細部に至るまで明記されています。

「水戸城実測図」は製作者・製作年代が不明ですが、描かれた内容から、藩政下の建物が撤去された明治4(1871)年の廃藩置県以降に明治新政府により製作されたと推測されます。施設の配置や建物の外側平面寸法が詳細に記入され、各施設の正確な規模が伺える貴重な資料です。また、正保城絵図には描かれていなかった建造物もみられ、幕末維新期における水戸城の姿を知ることができます。

城郭の正門である大手門、実質上の天守であった三階櫓、政務・儀式が行われた表御殿、藩主家族が暮らした奥御殿、大日本史編さん局である水戸彰考館等、城郭にとって重要な建造物が所在していた二の丸は、近世を通じて水戸城の中心的な曲輪でした。

江戸氏の支配した戦国時代まで中心的な曲輪として機能していた本丸・下の丸については、角櫓や多聞櫓のほか、下の丸曲輪の東突端に二重の浄光寺門（搦手門）が建てられるなど、曲輪の外側を廻る建造物は二の丸に勝るとも劣りませんでした。千波湖対岸からみた水戸城は、下の丸・本丸・二の丸の三つの曲輪に複数の角櫓や多聞櫓が連なり、壮観な景観を演出していたものと思われます。しかし、本丸・下の丸の曲輪内は、板蔵・土蔵が数棟ずつ建てられているのみで、大半は空閑地で、近世城郭としての重要性は二の丸に比べると相対的に低かったと考えられます。

三の丸については、土塁・堀切による防御機能は設けられていたものの、曲輪内の全域が近世初頭より重臣の屋敷地に充てられ、藩政運営に関わる機能は有していませんでした。しかし、九代藩主徳川斉昭が就封するに当たり、三の丸内の屋敷地は全て移転となり、天保12(1841)年、藩校弘道館を開設しました。弘道館内には正門、正庁、至善堂、孔子廟、鹿島神社、八卦堂、学生警鐘、文館、武館、医学館、天文台など、様々な建造物が整然と配され、特に正門、正庁、至善堂は御殿建造物に匹敵する重厚な仕様でした。斉昭は治教一致の理念により、政治と学問を一体のものとして捉えていたため、三の丸は、水戸城において二の丸に次ぐ重要な性格を有するようになり、明治に至りました。



「常陸国水戸城絵図」



「水戸城実測図」

【地区の現況】

二の丸

A	<p>大手門（二階建）</p>  	<p>当初、本丸へ向かう大手橋を渡った正面に二重門形式の大手門が建っていました。</p> <p>現在は遺構の一部が残るのみで、大手橋から東へ抜ける対面通行の道路が整備され、当時を想起させるものはなくなっています。</p>
B	<p>二の丸角櫓（二階建）</p>  	<p>当初、二の丸の南西角に二階建の櫓が建っていました。古写真は残っていませんが、本丸南西角櫓と同様であったと思われます。</p> <p>現在は、茨城大学教育学部附属幼稚園・小学校の敷地内の小島の森の一部となり、一部の遺跡が残るのみで、水戸駅から見ると、当時を想起させるものはなくなっています。</p>
C	<p>二の丸多聞櫓（一階建）</p>  	<p>当初、二の丸の南側に建てられていました。多聞櫓は二の丸、東二の丸にも建てられていましたが、この二の丸多聞櫓のみ古写真が残されています。</p> <p>現在は、水戸第三高等学校の敷地の南端にあたりグラウンドになっています。</p>
D	<p>柵町口門（一階建）</p>  	<p>当初、二の丸の南東に、二の丸へ向かう通りの入口として一階建の門が建てられていました。</p> <p>現在の水戸第三高等学校の敷地東側の校門付近に当たります。</p>
E	<p>柵町坂下門（一階建）</p>  	<p>当初、東側から二の丸へ向かう入口として一階建の門が建てられ、古写真が残されています。</p> <p>現在、門が建っていた通りは、水戸第三高等学校の敷地の東を通る、南側へ一方通行の上市 205 号線として整備され、当時を想起させるものはなくなっています。</p>
F	<p>杉山門（一階建）</p>  	<p>当初、二の丸の北側から入る入口に一階建の門が建てられていましたが、古写真はなく、絵図が残るのみです。</p> <p>現在は、水戸第三高等学校の敷地の北側の学校駐車場付近に当たり、当時を想起させるものはなくなっています。</p>

G	<p>中門（一階建）</p> 	<p>当初、二の丸の表御殿と奥御殿に入る入口として一階建の門が建てられていました。</p> <p>現在は、水戸第三高等学校と茨城大学教育学部附属幼稚園・小学校の敷地となっています。</p>
H	<p>表御殿（一階建）</p> 	<p>当初、二の丸の奥御殿の東側に渡り廊下でつながる一階建の建物として建てられていました。</p> <p>現在は、水戸第三高等学校と茨城大学教育学部附属幼稚園・小学校の敷地となっています。</p>
I	<p>奥御殿（一階建）</p> 	<p>当初、二の丸の表御殿の西側に渡り廊下でつながる一階建の建物として建てられていました。</p> <p>現在は、水戸第三高等学校と茨城大学教育学部附属幼稚園・小学校の敷地となっています。</p>
J	<p>三階櫓（五階建）</p> 	<p>当初、二の丸の南側に五階建の櫓が建てられていましたが、昭和20（1945）年の空襲で焼失してしまいました。</p> <p>古写真が多く残り当時の様子がよくわかりますが、現在は県立水戸第三高等学校のグラウンドに当たります。</p>
K	<p>水戸彰考館（一階建）</p> 	<p>当初、二の丸の北西に建てられていました。</p> <p>現在は、第二中学校となっていますが、その南側には、白壁に瓦屋根の二の丸展示館が建てられています。</p>
L	<p>大手橋</p> 	<p>当初、本丸へ向かう大手門の手前にかけられていた橋です。</p> <p>現在は、大手橋から東へ抜ける市道上市205号線の一部になり、車両制限（3t）がかけられています。昭和10年、近世の様式を継承しつつ鉄筋コンクリート造の橋として架け替えられ、土木学会推奨の土木遺産に認定されています。</p>

本丸

M	<p>本丸南西角櫓（二階建）</p>   <p>当初、本丸の南西角に二階建の櫓が建てられていました。 現在は、県立水戸第一高等学校の敷地となっています。</p>
N	<p>橋詰門（薬医門、一階建）</p>   <p>当初、二の丸から本丸へ通じる入口として門が建てられていました。 水戸城跡で唯一残る建造物で、水戸第一高等学校の敷地内に移築され、昭和 58（1983）年に県指定文化財として指定されました。 現在も高校の敷地内に残されています。</p>
O	<p>本丸北西角櫓（二階建）</p>   <p>当初、本丸の北西に二階建の櫓が建てられていました。 現在は、水戸第一高等学校の敷地となっています。</p>
P	<p>本丸多聞櫓（一階建、2 棟）</p>   <p>当初、本丸の南側に一階建の櫓として 2 棟建てられていました。 現在は、水戸第一高等学校の敷地となっています。</p>
Q	<p>中御門（一階建）</p>   <p>当初、本丸の南東に、本丸と下の丸をつなぐ一階建の門として建てられていました。 現在は、水戸第一高等学校のグラウンドになっています。</p>
R	<p>板蔵（一階建、2 棟）</p>   <p>当初、本丸の北側に一階建で 2 棟建てられていました。 現在は、水戸第一高等学校の敷地となっています。</p>

S	<p>本城橋</p>   <p>当初、二の丸から本丸へ通じる橋詰門の手前にかけられていた橋です。</p> <p>現在は、新しい橋がかけられ、水戸第一高等学校へ向かう橋となっています。</p>
---	---





下の丸

T	<p>下の丸角櫓（二階建，多聞櫓付属）</p>   <p>当初、下の丸の南東角に二階建の櫓として建てられていました。</p> <p>現在は、水戸第一高等学校のグラウンドになっています。</p>
U	<p>浄光寺門（二階建）</p>   <p>当初、下の丸の東側からの入口として二階建の門が建てられていました。</p> <p>現在は、水戸第一高等学校のグラウンドになっています。</p>
V	<p>土蔵（一階建，3棟）</p>   <p>当初、下の丸の中央付近に一階建の土蔵が3棟建てられていました。</p> <p>現在は、水戸第一高等学校のグラウンドになっています。</p>

三の丸

W	<p>弘道館（正門、正庁、至善堂、孔子廟、鹿島神社、八卦堂、文館、武館、医学館、天文台ほか） ※天保 12(1841) 年以前は重臣屋敷地</p> <div data-bbox="284 324 686 750">  </div> <div data-bbox="710 324 1356 750">  </div> <p>水戸藩の藩校として、当時の藩校としては国内最大規模のものとして、第9代藩主 徳川斉昭公により天保 12 年（1841 年）に建てられました。 現在は、国指定特別史跡、及び正庁・至善堂・正門は国指定重要文化財になっています。</p>
---	--

その他

弘道館東側用地	<div data-bbox="422 952 774 1310">  </div> <div data-bbox="821 974 1324 1310">  </div> <p>当初、三の丸の北西端の外周にあたり、現在は、法務省の官舎が建つ敷地として利用されています。</p>
義公生誕の地	<div data-bbox="367 1422 829 1758">  </div> <div data-bbox="877 1422 1324 1758">  </div> <p>当初、二の丸の南側に位置し、水戸藩家老三木之次の屋敷地内でした。この三木邸内で第2代藩主徳川光圀（義公）が生まれました。現在は宅地や駐車場として利用され、市道を挟んだ東側には、義公祠堂（黄門神社）が祀られ、市史跡に指定されています。</p>

ウ 社会的特性

弘道館・水戸城跡周辺地区を含む中心市街地は、様々な都市中枢機能が集積する「まちの顔」として、商業をはじめ、業務、行政、教育、医療、居住機能など、地域経済の発展に重要な役割を果たしてきました。

しかし、長引く景気の低迷とともに、消費者ニーズの多様化、郊外への大規模店舗の立地の進行などの影響により、中心市街地の活力が低下していると指摘されています。

中心市街地は、元来、婦人服や贈答品といった買い回り性の高い商品を取り扱う店舗が多く、生鮮食料品といった日常生活品を取り扱う店舗が少ないことから、相対的に見て専門性が高く広域型の営業を展開していると考えられます。

市内には全部で33の商店街団体（商店街振興組合、商店会）があり、このうち21の商店街団体が中心市街地に集中しています。中心市街地の21商店街団体は、国道50号を軸に形成され、単線型で約2キロメートルという極めて長い街区を形成しています。

公共公益施設等については、昭和47年に水戸市役所、平成11年に茨城県庁が地区から移転したものの、水戸地方法務局、水戸税務署、水戸警察署などの行政機関は今でも数多く集積し、平成19年4月には、水戸市子育て支援・多世代交流センターが中心市街地に建設されるなど、地区内や中心市街地への公共施設の立地が図られています。

また、地区内には茨城大学教育学部附属小学校、同附属幼稚園、茨城県立水戸第一高等学校、同水戸第三高等学校、第二中学校、三の丸小学校等の教育機関が多数集積していることも特徴であることから、周辺部からの通勤通学により、昼間人口は高い水準を保っています。

公共交通については、地区に接して茨城県内最大のターミナル駅である水戸駅があり、中心市街地を経由する路線バスの運行本数も多く、通勤、通学などの日常生活をはじめ、観光客の足としても、重要な役割を果たしています。

学区別人口及び世帯数

各年10月1日現在

学区別	平成24年				平成25年			
	世帯数	人口			世帯数	人口		
		男	女	計		男	女	計
三の丸	3,946	4,003	3,795	7,798	4,040	4,098	3,922	8,020

資料：情報政策課

町丁別人口及び世帯数

各年10月1日現在

町丁別	平成24年				平成25年			
	世帯数	人口			世帯数	人口		
		男	女	計		男	女	計
総数	1,224	1,359	1,330	2,689	1,242	1,396	1,338	2,734
三の丸1丁目	221	243	273	516	232	270	273	543
三の丸2丁目	206	224	217	441	207	219	211	430
三の丸3丁目	403	434	378	812	403	444	391	835
宮町1丁目	287	361	353	714	287	362	356	718
北見町	103	93	107	200	97	86	101	187
大町1丁目	4	4	2	6	16	15	6	21

資料：情報政策課

注)1 町丁別人口及び世帯数は平成22年国勢調査に基づく推計値です。

2 地区の課題

在りし日の水戸城は、土塁と空堀によって築かれた国内最大級の土造りの平山城として知られています。戦災等によって、多くの建造物を失いましたが、土塁と空堀の遺構、薬医門や世界遺産登録を目指す弘道館をはじめとした歴史的資源が現存するなど、城跡の名残をとどめ、日本 100 名城（公益財団法人日本城郭協会）にも選定されています。

しかし、本地区の多くが学校や官公庁の敷地となっているため、往時の風情を偲び、回遊性を高めるための核となる歴史的資源が少なく、また、本地区が旧水戸城内にあることを印象づけ、回遊性を高めるための道路景観整備が一部にとどまり、人々が集い、にぎわいを創出する休憩施設等が少ない状況です。

こうした現況を踏まえ、本地区においては、中心市街地のにぎわいづくりを視野に入れ、現状では不十分である歴史的建造物の復元や道路景観整備を検討しながら、歴史的資源を生かしたまちの歴史的魅力の向上とにぎわいづくりを推進し、本地区を水戸の顔にふさわしい魅力発信・交流拠点として磨き上げていく必要があります。

3 上位計画，関連計画における地区の位置付け

(1) 水戸市第6次総合計画

本市は，平成 26 年 3 月，都市づくりの基本方針となる「水戸市第 6 次総合計画」を策定し，「笑顔にあふれ快適に暮らせる安心都市づくり」，「未来に躍動する活力ある先進都市づくり」，「水戸ならではの歴史，自然を生かした魅力ある交流都市づくり」の三つの理念のもと，将来都市像を「笑顔にあふれる安心快適空間 未来に躍動する 魁のまち・水戸」と定め，その実現に向けた各種施策を位置付け，計画に基づく施策を推進することとしています。

このうち，「水戸市第 6 次総合計画」の特徴でもある基本計画の重点プロジェクトにおいては，「～水戸の自然，歴史，文化の魅力を生かした～観光集客力アッププロジェクト」を位置付け，本市の有する歴史・文化の魅力の向上に優先的かつ集中的に取り組むこととしています。

また，歴史的資源を活用したまちづくりは，観光や都市景観，にぎわい，交流の創出に重要な要素となっていることから，基本計画・各論中の「都市核（中心市街地）の強化」，「戦略的な観光の振興」，「歴史的資源の保全と活用」，「魅力ある景観の形成」，「魅力ある交流拠点の形成」，「水戸のブランド力の向上」において，歴史まちづくりに係る施策等が位置付けられています。

○基本計画・重点プロジェクト

「～水戸の自然，歴史，文化の魅力を生かした～観光集客力アッププロジェクト」

水戸の歴史・文化の魅力向上により多くの人が訪れるまち，訪れるたびに新たな発見や感動に出会えるまちを目指し，戦略的な取組を進めることとしています。

＜戦略的な取組＞

- ・ 弘道館・水戸城跡周辺の魅力づくり（歴史的建造物の復元等）
- ・ 歴史・観光ロードの整備
- ・ 戦略的観光 P R 活動の推進
- ・ 回遊できるまちなか観光散策コースの構築

＜基本計画・各論＞

「歴史的資源の保全と活用」をはじめ，六つの小項目において，弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりの推進を位置付け，各種施策を推進することとしています。

- ・ 2－1－1 都市核（中心市街地）の強化
- ・ 2－2－1 戦略的な観光の振興
- ・ 3－1－1 歴史的資源の保全と活用
- ・ 3－1－3 魅力ある景観の形成
- ・ 3－3－1 魅力ある交流拠点の形成
- ・ 3－3－2 水戸のブランド力の向上

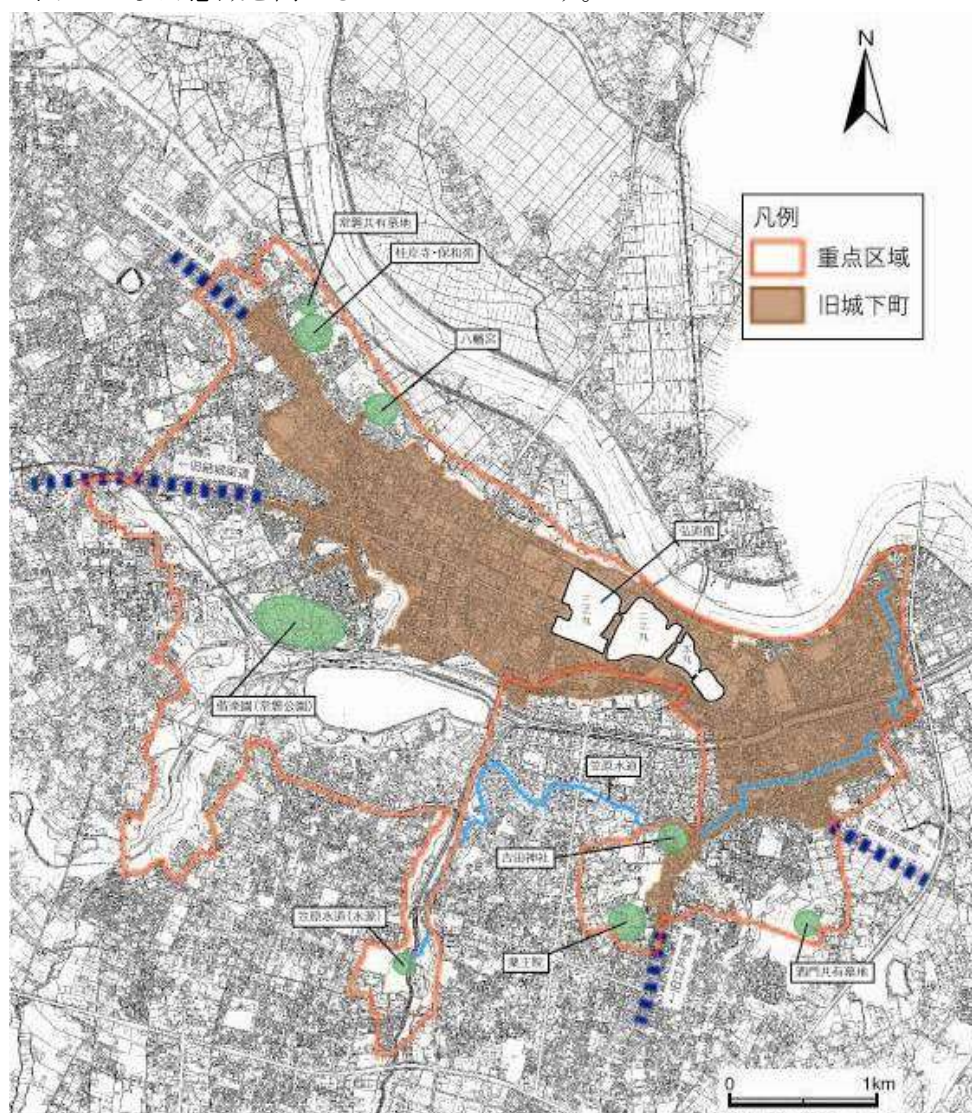
(2) 水戸市歴史的風致維持向上計画

本市は、平成 22 年 2 月、水戸市歴史的風致維持向上計画を策定しました（平成 25 年 3 月に一部改定）。

本計画では、本市の歴史的風致の維持及び向上に関する方針として、次の項目を掲げています。

- ・ 水戸の歴史的風致を形成する文化財建造物に代表される多様な歴史的建造物の積極的な保存と活用を図る。
- ・ 水戸の歴史的風致に息づく民俗芸能、年中行事などの継承、育成を図る。
- ・ まちづくりと連動し、文化財と周囲の環境との一体的な保全を図る。

中でも弘道館・水戸城跡周辺地区は、本市において重点的に歴史的風致の維持・向上に取り組む範囲である重点区域（水戸市歴史的風致保存・形成区域／面積は約 1,160ha）に含まれています。重点区域は本市の歴史的風致の特徴の一つである水戸城跡及び城下町の周辺区域に相当し、歴史的建造物の保全・復元とその周辺環境の整備により、城下町の歴史と伝統を踏まえた情緒や風情のある良好な市街地が形成され、市民の間に本市の歴史性を踏まえたまちづくりへの参加意識を高めることとしています。



重点区域における水戸城跡及び旧城下町の範囲

(3) 水戸市景観計画

本市は、魅力ある都市景観の形成を目指し、平成16年制定の景観法に基づき、平成20年にこれまでの都市景観基本計画を水戸市景観計画として改定しました。

本計画では、本市の歴史、文化等の特色を生かした魅力ある都市景観の形成に向け、基本方針の一つに「風格、味わいある歴史・文化景観の育成」「自然や歴史と調和した美しいまち並みの形成」を掲げ、歴史的資源のつながりや回遊性の向上を図るとともに、歴史的資源を保全・再生・再認識し、伝統文化を発見し、継承することとしています。

弘道館・水戸城跡周辺地区（本計画では「三の丸周辺地区」と呼称）については、偕楽園周辺地区、保和苑周辺、備前堀周辺とともに重点的に景観形成を図る地区とされ、周辺の歴史的資源との連携や一体的な活用による景観の形成を推進するほか、弘道館や偕楽園など、先人の遺した文化財等を貴重な歴史的資源として再認識し、歴史のまちの風格・味わい、奥行きが感じられるよう、歴史的資源の保全、再生を図ることとしています。

具体的な景観形成方針としては、景観に配慮した公共施設の整備、風致地区内における建築物の高さの制限や意匠の誘導、大規模建築物や屋外広告物等の規制誘導などにより、その自然や歴史性などの特性を生かしたまちづくりに努めるとともに、義公生誕の地については、周辺と融合した歴史資源として保全するとともに、周辺地区の良好な景観の誘導に努めることとしています。



景観計画における弘道館・水戸城跡周辺地区

(4) 水戸市新観光基本計画

本市は、平成 17 年 4 月、新観光基本計画を策定しました。

本計画では、弘道館などの歴史的資源をはじめとする多様で魅力ある観光資源をもとに、観光振興のコンセプトを「黄門さまと地域振興を生かした観光による漫遊元気都市づくり」と定め、観光施策を計画的、総合的に実施していくこととしています。

弘道館・水戸城跡周辺地区については、「都市観光の充実」における主要事業として「弘道館周辺の魅力づくり」が掲げられています。この中で、国の特別史跡である弘道館を、今後も市民や観光客に対し、その歴史的背景の周知に努めるとともに、歴史都市・水戸を象徴する史跡として、観光資源としての活用を図ることとしています。

また、弘道館周辺については、薬医門等の歴史的観光資源の有効活用を検討するとともに、地区一帯の回遊性を高めるために、案内板の充実を図り、さらなる魅力づくりに努めることとしています。

現在、水戸市第 6 次総合計画の策定にあわせ、本市を取り巻く課題等に対応し、観光交流人口の増加に向けた施策を戦略的かつ総合的に展開するため、新たな観光基本計画（第 3 次）の策定作業を進めているところです。

第3 歴史まちづくりの基本方針

1 基本理念

弘道館・水戸城跡周辺地区については、現存する歴史的資源を積極的に活用するとともに、遺跡として埋蔵している旧水戸城歴史的建造物の魅力や価値を一層高めるため、その復元整備に取り組むとともに、様々な歴史的資源をつなぐ回遊空間の創出や、水戸城跡の風情を感じさせる歴史的景観の保全・形成を図ることにより、市民や観光客が水戸城跡の魅力を最大限に味わい、集い、交流する歴史まちづくりを進めるものとします。

そのため、本地区の歴史まちづくりの基本理念を、

「水戸の顔にふさわしい 天下の魁の精神を受け継ぐ歴史・文化交流拠点の形成」

と定めます。

2 地区の歴史まちづくりの視点

多くの市民や観光客が、弘道館・水戸城跡周辺地区を訪れ、その魅力を再発見できるよう、次の三つの視点からの歴史まちづくりに取り組みます。

歴史まちづくりの視点1 誰もが水戸城を感じることができる歴史的空間づくり

世界遺産登録を目指す弘道館を核としたゾーンにおいて、市民が水戸の歴史にふれたい、観光客が訪れてみたいと思える水戸らしい歴史的資源の復元、再生整備や魅力向上を図り、「誰もが水戸城を感じることができる歴史的空間の形成」を進めます。

○ 施策の基本的方向

- ・水戸の歴史の象徴である旧水戸城歴史的建造物の復元整備
- ・風格の感じられる歴史的景観づくり
- ・学校教育、社会教育面での活用

歴史まちづくりの視点2 水戸城跡の魅力資源を繋ぎ、楽しく歩きたくなる回遊性の創出

多くの観光客が降り立つ水戸駅北口ペデストリアンデッキから、水戸の歴史に思いをはせ、期待感を持って本地区に向かうことのできる眺望景観の形成を図るとともに、水戸の歴史を感じることのできるモニュメント等の整備を進め、「水戸城跡の魅力資源を繋ぎ、楽しく歩きたくなる回遊性の創出」を図ります。

○ 施策の基本的方向

- ・眺望景観に配慮した歴史的建造物の復元整備
- ・歴史を感じることのできるモニュメント等の整備
- ・歴史的資源や未利用地の有効活用

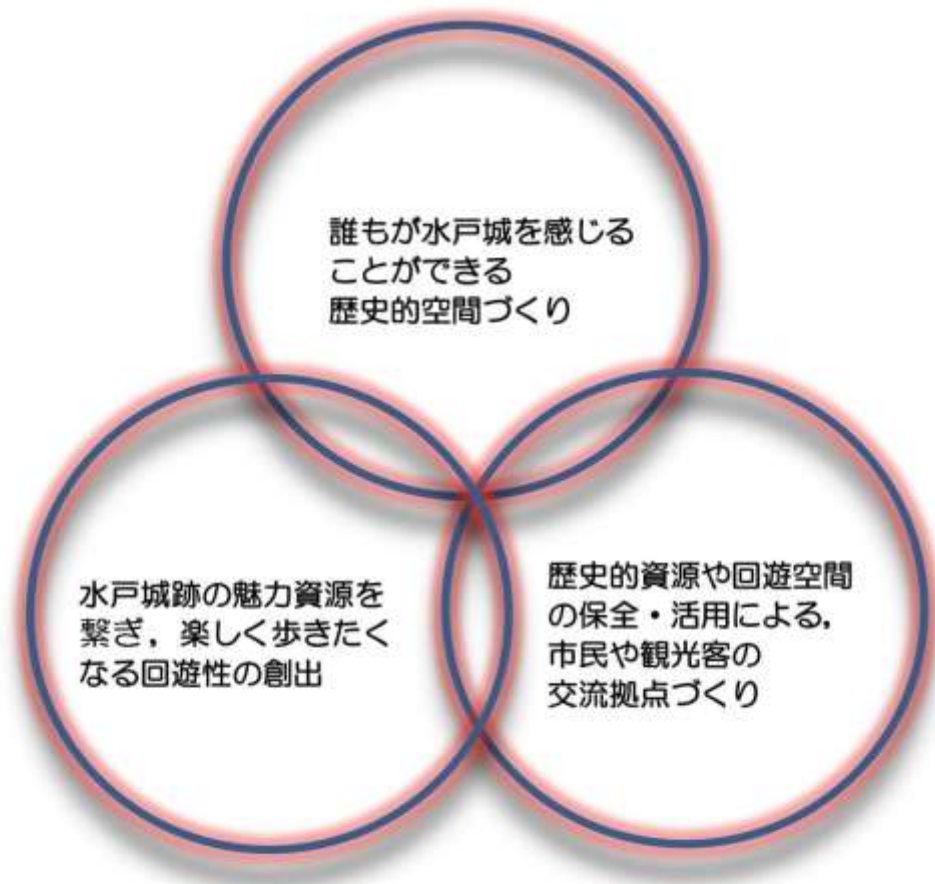
歴史まちづくりの視点3 歴史的資源や回遊空間の保全・活用による、市民や観光客の交流拠点づくり

市民が水戸の歴史を再認識し、また、多くの観光客が分かりやすく水戸の歴史を辿ることのできるよう、歴史的資源を回遊しやすい環境づくりを進めるとともに、中心市街地への新たな人の流れを生み出す連携施策に取り組むなど、「歴史的資源や回遊空間の保全・活用による、市民や観光客の交流拠点づくり」を進めます。

○ 施策の基本的方向

- ・ 歴史を感じ、歩いて楽しめる歩行者空間の整備
- ・ 回遊しやすいサインの配置、マップ等の作成
- ・ 中心市街地のにぎわいづくりに向けた関連施策の推進
- ・ 市民との協働による推進体制の整備

《歴史まちづくりの三つの視点》



①水戸城大手門の復元



在りし日の水戸城大手門



復元後のイメージ

③歴史・観光ロードの整備

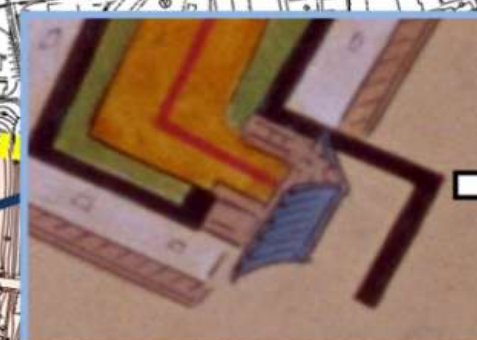


水戸城跡通り（現在）



整備後のイメージ

④杉山門の再生



絵図

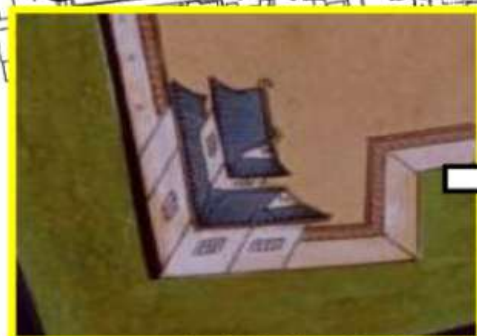


再生後のイメージ

水戸らしい歴史的資源の整備
・魅力向上を図るゾーン

水戸の歴史に思いをはせる
眺望景観の形成

②二の丸角櫓の復元



絵図



復元後のイメージ

⑤柵町坂下門の再生



古写真



再生後のイメージ

0 50 100 200 300 400 500m



3 施策の大綱

基本理念の実現に向け、施策の大綱を次のとおり定めます。

(1) 魅力ある歴史的建造物の復元整備

世界遺産登録を目指す弘道館や水戸駅北口ペデストリアンデッキからの眺望景観を踏まえ、市民や観光客が水戸の歴史にふれたい、訪れてみたいと思える魅力ある歴史的建造物として、本地区で学ぶ園児、児童生徒の安全性と緑地の保全に十分配慮しながら、市民との協働により魅力ある歴史的建造物の復元整備を進めます。

(2) 歴史の感じられる歩行者空間の形成

市民や観光客が水戸の歴史を感じ、歩いて楽しめる環境づくりとして、白壁塀等の再生整備を進めるとともに、回遊しやすい案内板等を設置するなど、歴史の感じられる歩行者空間の形成を図ります。

(3) 中心市街地のにぎわいと交流の創出

本地区の歴史的資源の魅力を効果的に活用し、観光部門との連携により、まちなかの回遊性を高める様々な施策を推進し、中心市街地のにぎわいと交流の創出を図ります。

(4) 歴史的景観の保全と形成

景観計画に基づく施策を推進し、本地区の特徴である風格の感じられる歴史的景観の保全と形成を図ります。

(5) 推進体制の充実

本基本構想に定めた施策を着実に推進し、世界遺産登録を目指すにふさわしく、魁のまち・水戸のさらなる発展のシンボルとなる、市民との協働による推進体制を整備します。



図6-5 江戸時代の水戸城跡周辺地区(西から)
復元：三浦正幸 CG制作：株式会社エス

江戸時代の水戸城跡周辺地区(西から)
復元：三浦正幸 CG制作：株式会社エス

第 2 章 基本構想 各論

第1 魅力ある歴史的建造物の復元整備

【基本的方向】

世界遺産登録を目指す弘道館や水戸駅北口ペDESTリアンデッキからの眺望景観を踏まえ、市民や観光客が水戸の歴史にふれたい、訪れてみたいと思える魅力ある歴史的建造物として、本地区で学ぶ園児、児童生徒の安全性と緑地の保全に十分配慮しながら、市民との協働により魅力ある歴史的建造物の復元整備を進めます。

1 復元整備を進める歴史的建造物

旧水戸城歴史的建造物の多くが戦災等で失われている中で、本地区の歴史的魅力をさらに高めていくため、これまでの発掘調査や歴史資料等の復元根拠資料の成果や本地区の土地利用の状況、弘道館や水戸駅北口ペDESTリアンデッキからの眺望景観等を踏まえ、旧水戸城歴史的建造物のうち、大手門、二の丸角櫓、土堀について、魅力ある歴史的建造物として復元整備を進めることとします。

【参考】復元根拠資料からの検討

二の丸	大手門	古絵図・古写真が残るが、発掘調査から位置や規模等を確認
	二の丸角櫓	古絵図・古写真が残るが、発掘調査から位置や規模等を確認
	二の丸多聞櫓	古絵図・古写真は残るが、発掘調査が未実施
	柵町口門	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	柵町坂下門	古絵図・古写真は残るが、発掘調査が未実施
	杉山門	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	中門	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	表御殿	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	奥御殿	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	三階櫓	古絵図・古写真は残るが、発掘調査が未実施
	水戸彰考館	古絵図は残るが、古絵図がなく、発掘調査もさらなる実施が必要
	大手橋	古絵図・古写真は残るが、発掘調査が未実施
	二の丸土堀（大手門、二の丸角櫓に取り付く部分）	古絵図・古写真が残るが、大手門、二の丸角櫓の発掘調査から概ねの位置を確認
	白壁堀	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
本丸	本丸南西角櫓	古絵図・古写真は残るが、発掘調査が未実施
	橋詰門（薬医門）	現存、茨城県指定有形文化財（建造物）
	本丸北西角櫓	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	本丸多聞櫓2棟	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	中御門	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	板蔵2棟	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	本城橋	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	本丸土堀	古絵図・古写真は残るが、発掘調査が未実施
下の丸	下の丸角櫓	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	浄光寺門	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	土蔵3棟	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施
	下の丸土堀	古絵図は残るが、古写真がなく、発掘調査が未実施

2 復元整備活用方針

(1) 歴史的建造物の復元整備

ア 大手門の復元整備

大手門は、世界遺産登録を目指す弘道館の正門と向かい合い、水戸城跡への導入部として、重要なランドマークといえます。

平成5年と平成24年に実施した発掘調査の結果、その規模と位置が判明し、また、絵図や古写真も確認しています。

このような調査に基づき、遺構を保護しながら（茨城県指定史跡指定地内に属する。）、大手門の復元整備を進めます。



大手門の復元整備後のイメージ（弘道館正門から望む。）

イ 二の丸角櫓の復元整備

二の丸角櫓は、土塀と相まって、多くの観光客が降り立つ水戸駅北口ペデストリアンデッキから眺望できるランドマークとして、多くの人に水戸城跡の存在を気付かせ、期待感を持って本地区に向かう契機となります。

平成 22 年と平成 23 年に実施した発掘調査の結果、その規模と位置が判明し、また、絵図や、類似する本丸角櫓の古写真も確認しています。

このような調査に基づき、二の丸角櫓の復元整備を進めます。

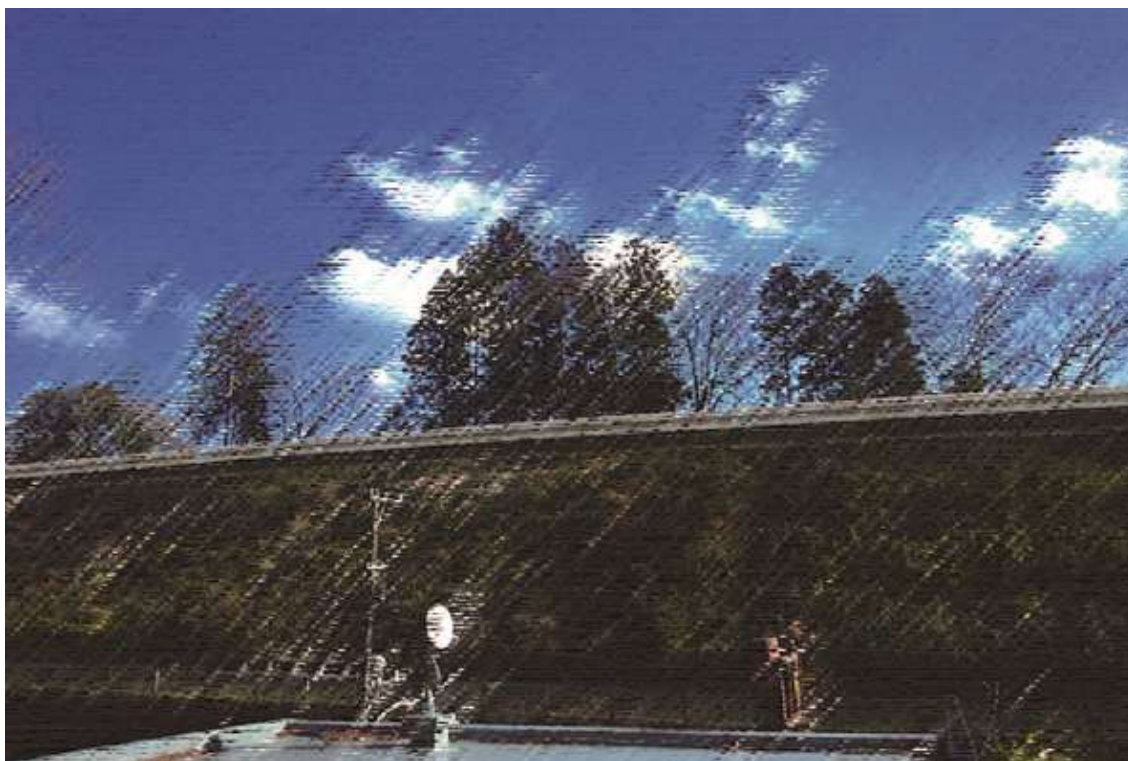


二の丸角櫓の復元整備後のイメージ（水戸駅北口ペデストリアンデッキから望む。）

ウ 土塀の復元整備

大手門と二の丸角櫓の間等には、土塀が廻っていたことが、大手門や二の丸角櫓の発掘調査の結果や、絵図や古写真からも確認しています。

このような調査に基づき、遺構を保護しながら（茨城県指定史跡指定地内に属する。）、大手門の復元整備を進めます。



土塀の復元整備後のイメージ（県道市毛水戸線から望む。）

エ 「小鳥の森」の保全

大手門、二の丸角櫓等の復元整備予定地は、茨城大学教育学部附属小学校の「小鳥の森」として児童や卒業生に親しまれ、東日本大震災に伴う法面の災害復旧工事によって多くの樹木が伐採されたため、「小鳥の森」再生に向けた取組が行われています。

また、大手門と二の丸角櫓を接続する土塀の大部分は、県指定史跡「水戸城跡（墨及び濠）」として、高い歴史的な価値を有しています。

附属小学校の校歌では、水戸城跡に立地するという歴史性と、「小鳥の森」という自然環境の重要性が歌われていることから、文武の伝統が息づく本地区で学ぶ園児、児童生徒にとって郷土の歴史・文化を肌で実感する貴重な教育資源となり、また、「小鳥の森」の発展にも繋がるよう、十分配慮しながら、復元整備を進めます。

オ 市民との協働による復元

水戸城歴史的建造物の復元整備に当たっては、本地区の歴史まちづくりに向けての市民参加の気運を醸成し、市民との協働による取組を進めます。

カ 復元整備に係る基本計画の策定

今後、大手門・二の丸角櫓等の復元整備に係る基本計画を策定する中で、適切な工法、事業費、スケジュール等について十分な検討を行います。

(2) 歴史的建造物の活用方針

大手門・二の丸角櫓等の復元整備に当たっては、水戸ならではの歴史・文化への理解を深め、新たな水戸の魅力として発信できるよう、ボランティア等との連携のもと、広く一般公開を行います。

また、文武の伝統が息づく本地区で学ぶ園児、児童生徒をはじめ、市民の郷土愛と郷土への誇りを醸成する貴重な教育資源として、学校教育や社会教育の場での活用を図ります。

さらに、本地区内の歴史的建造物を浮かび上がらせ、歴史的魅力を高めるため、夜の水戸城の厳かな雰囲気演出する夜間のライトアップ事業の充実を図ります。



熊本城御殿の展示状況



二条城角櫓のライトアップ

(3) 歴史的建造物の管理に向けての整備方策

大手門、二の丸角櫓等の復元整備予定地は、茨城大学附属小学校・幼稚園及び第二中学校の敷地内で実施することから、園児、児童生徒の安全性の確保と緑地の保全に十分配慮するとともに、整備後の管理の面から、復元整備予定地の公有化について検討を進めます。

※ 1 大手門の通行の考え方

大手門の復元整備に当たって、市道上市 205 号線の一部区間の廃止に向け、関係機関との協議を進めます。

【参考】横木（地覆）の取扱例

1	横木（地覆）を取り外し可能な構造とした事例	 弘前城	歩行者や緊急時の車両の通行に支障はない。
2	横木（地覆）を常時取り付けたままにした事例	 熊本城	スロープを取付けることにより、歩行者等の通行は可能だが、緊急時の車両の通行は難しい。

※ 2 道路交通規制の見直しの考え方

大手門の復元整備によって、市道上市 205 号線のうち、大手門の前後の区間が車両通行止めとなる場合、十分な周知を行うとともに、従前の機能を担保できるよう、弘道館正門前の市道上市 6 号線や茨城県立水戸第三高等学校正門付近の市道上市 205 号線の対面通行化に向け、関係機関との協議を進めます。

※ 3 大手門から二の丸角櫓に至るルートの考え方

茨城大学教育学部附属小学校の敷地内において復元整備を進めることとなるため、園児、児童の安全性と緑地の保全に十分配慮しながら、関係機関との協議を進めます。

2 道路景観整備の方針

(1) 道路景観整備の基本的考え方

- ア 歴史的景観に調和した整備を基本とします。
- イ 観光のまちづくりにつながるよう、歩いて楽しめる歩行空間を確保します。
- ウ 歴史的資源間の回遊性を高めるため、視覚的な誘導を図ります。
- エ 整備に当たっては、現幅員を基本とし、拡幅等を要す路線（区間）については、中・長期的に取り組めます。

(2) 道路の歴史的デザインの仕様

道路景観整備に当たっては、地区の特性に配慮し、次に掲げる仕様に統一することで視覚的な誘導により、魅力ある歴史的景観の形成を図ります。

ア 車道の舗装

車道は、土色系舗装とします。



土色系舗装



土色系舗装の例（偕楽園御成門通り）

イ 歩道と歩車道分離ブロック

歩道と歩車道分離ブロックは、周辺の歴史的景観の色彩に調和させるため、白御影石調ブロックとし、歩道部の点字ブロックは黒御影石を使用します。また、電線共同溝工事を行います。



市道上市 201 号線の歩車道分離ブロック



点字ブロック



水戸城跡通り（現在）



水戸城跡通り（整備後のイメージ）

ウ ライトアップ施設の設置の充実

夜の水戸城の厳かな雰囲気を楽しみながら散策できるよう，ライトアップ施設の設置を進めます。



三の丸土塁及び堀に沿った市道上市 201 号線のライトアップ施設

(4) 旧水戸城歴史的建造物の再生整備

市道上市 205 号線（水戸城跡通り）は、水戸城跡周辺地区を横断し、回遊ルート of メーンとなることから、視覚的な誘導を図っていくための効果的な仕掛けが必要となります。

そのため、旧水戸城歴史的建造物のうち、水戸城のメイン通りに位置する白壁塀、杉山門、柵町坂下門等について、水戸の歴史を感じることでできる歴史的モニュメントとして、道路景観整備に位置付け、茨城大学や茨城県の協力を得ながら、再生整備を進めます。

ア 白壁塀の再生整備

本市では、平成 23 年度から平成 25 年度にかけて、第二中学校周辺整備事業を実施し、市道上市 205 号線の北側に接する同中学校の外構工事について、水戸城跡にふさわしい白壁の意匠により整備を実施したところですが、同市道の南側の外構は依然としてフェンスやコンクリート擁壁等になっています。

そのため、市道上市 205 号線南側の茨城大学教育学部附属小学校と茨城県立水戸第三高等学校の区間について、白壁塀の再生整備を進めます。

【白壁塀の歴史的特性】

白壁塀は、水戸城二の丸曲輪を横断する通り（現在の市道上市 205 号線／水戸城跡通り）の両側に設けられていました。

古絵図によれば、通りの長さは東西約 265m、幅員は約 18m を測る壮大なもので、その両側に白壁塀がありました。この通りは水戸城内に設けられた道路の中で最大規模で、藩主御殿、奥御殿、水戸彰考館といった城内の主要施設にアクセスする水戸城を代表する通りに位置付けられます。

また、現在の同区間の市道上市 205 号線が東西約 280m、幅員約 17m を測ることから、江戸時代と現在の道路規模がほぼ変化していないことが窺えます。

イ 杉山門、柵町坂下門の再生整備

北からの登城口として重要な役割を果たしていた杉山門、南からの登城口である柵町坂下門の再生整備を進めます。

【杉山門、柵町坂下門の歴史的特性】

杉山門及び柵町坂下門は、水戸城二の丸に登城する際に潜る通用門です。古地図と現在の地図を照合すると、当時の建設位置が現在道路の下になっている可能性が高いものと考えられます。

柵町坂下門については、明治期の古写真があり、この古写真から柵町坂下門は、本瓦葺、切妻造の門であることが分かります。中央の大きな扉の両脇に脇間があり、向かって左側には潜戸が写っています。城郭の場合、こうした背面に屋根を持った控柱を付ける形式は高麗門と呼ばれます。古写真には控柱は明確に写っていないものの、脇間を持つ高麗門は重要文化財建造物には現存例がなく、珍しい事例と言えます。

杉山門については、柵町坂下門のように古写真は残っていませんが、江戸期の絵図に柵町坂下門とともにその姿が模式的に描かれています。この絵図から、杉山門も柵町坂下門と同じような形式であることが想像できます。



白壁塀（水戸市立第二中学校）



杉山門の再生整備後のイメージ



柵町坂下門の再生整備後のイメージ

(5) コンクリート擁壁の改修

水戸第三高等学校正門付近の市道 205 号線，市道 206 号線東側については，往時の貴重な遺構である水戸城の土塁が部分的にコンクリート擁壁で補強されているため，歴史的景観と調和した改修を進めます。



上市 205 号線



上市 206 号線

3 義公生誕の地の有効活用に向けた考え方

(1) 基本的な考え方

義公生誕の地は、水戸駅から近く、水戸の顔にふさわしい歴史まちづくりに向け、重要な意義があるため、歴史的な観光資源としての有効活用方を検討します。

(2) 考えられる整備活用方策

- 市指定史跡「義公生誕の地」内に位置する義公祠堂や石碑等の活用
- お休み処として、ベンチ（雨よけ屋根付きなど）やトイレの設置
- 本地区の歴史的資源や観光資源などの基本情報を記載した案内板等の設置



義公生誕の地



義公生誕の地へ向かう路地



歴史的資源をランドマークとした整備例
(熊本県山鹿市)



歴史的資源へ至るルートを演出した整備例
(熊本県山鹿市)

4 弘道館東側用地の有効活用に向けた考え方

(1) 基本的な考え方

弘道館東側用地は、地区の回遊性向上のため、お休み処としての整備等を視野に入れた有効活用方を検討します。

(2) 考えられる整備活用方策

- 歩いて楽しめる歩行者空間の形成と将来の観光客数の増加を見込み、駐車場を設置
- 観光客が集い、安らぎを与えられるお休み処として、飲食等ができるスペース等を整備



弘道館正門向いの駐車場



弘道館東側用地



飲食施設を伴うお休み処の整備例（松江城の事例）



物販施設を伴うお休み処の整備例（岩国城の事例）

5 案内板等の整備方針

現在設置されている案内板等はその仕様が様々で統一されていないため、今後は、水戸市サインマニュアルとの整合性を図りながら、外国人観光客にも分かりやすい多言語表記を基本とした統一感のある案内板等の整備を進めます。



仕様が様々な既存の説明板



仕様が様々な既存のサイン

第3 中心市街地のにぎわいと交流の創出

【基本的方向】

本地区の歴史的資源の魅力を効果的に活用し、観光部門との連携により、まちなかの回遊性を高める様々な施策を推進し、中心市街地のにぎわいと交流の創出を図ります。

1 回遊性を高める機能強化と魅力づくりの推進

(1) 回遊できる観光地づくり

地区内外に点在する観光資源を効果的に繋ぎ、城下町のイメージを体感するとともに、郷土の歴史文化への理解を深め、郷土愛や郷土への誇りを醸成するため、まちなか観光散策コースを構築します。

また、地区内外の歴史・観光スポットを循環する市内周遊バスの運行やレンタサイクルを拡充するほか、ペロタクシーの導入に向けた検討を進めます。



市内周遊バスの運行（水戸の梅まつり）



和歌山城のレンタサイクル（和歌山市の事例）



ペロタクシー導入の検討（仙台市の事例）

(2) 既存観光資源のリノベーションによる魅力づくり

水戸藩の歴史をまとめた水戸藩歴史マップを作成し、歴史のまちとしての水戸の魅力を発信するとともに、夜の水戸城の厳かな雰囲気を楽しみながら散策できるよう、ライトアップ事業の充実を図ります。

また、世界遺産登録を目指す弘道館と偕楽園は、「学問」と「休養」を一對とした教育施設であり、水戸の誇れる貴重な観光資源でもあるため、弘道館と偕楽園を一對として捉えた観光案内やイベントを実施するとともに、外国人観光客に向けた体験型の文化財活用方策の充実を図ります。



三の丸のお堀のライトアップ



低区配水塔のライトアップ

第4 歴史的景観の保全と形成

【基本的方向】

景観計画に基づく施策を推進し、本地区の特徴である風格の感じられる歴史的景観の保全と形成を図ります。

1 歴史的景観の保全

(1) 景観法の届出による景観誘導

市内全域において、周辺景観やまち並みと調和した良好な景観形成を推進するため、景観法に基づき、大規模建築物の建築などについて、事前の届出を義務付け、意匠、配置、形態、色彩等に関し、景観形成基準に基づく誘導を行っています。

そのうえで、本地区については、「歴史のまち水戸」を感じることができる地区であることを踏まえ、高さの景観形成基準を「弘道館正面からの眺望景観の保全に配慮する」ととし、良好な景観誘導を図っています。

今後も、本制度により、地区の歴史性を踏まえた良好な景観誘導に努めます。

(2) 高度地区による高さ規制

本市の市街化区域全域において、歴史的景観や自然景観の保全、良好な住環境の保全などを目的として、高度地区の指定を行い、都市計画に定める用途地域ごとに15mから60mまでの高さの規制値を設定しています。

そのうえで、重要な歴史的資源を有する本地区については、「良好な景観を保全すべき地区」として、地域の特性に応じた規制値に基づく規制を行っています。

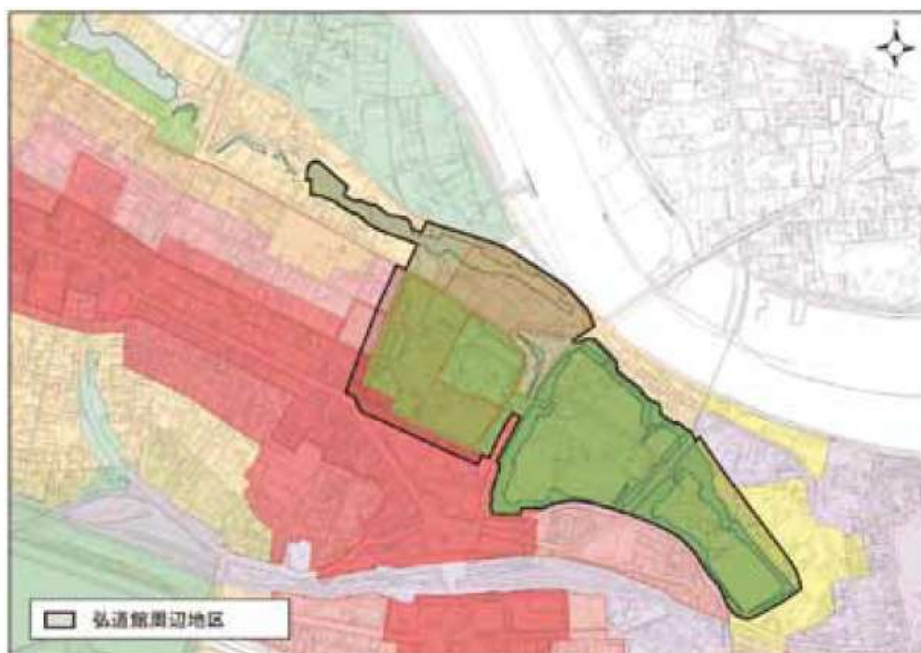
今後も、高度地区による景観の保全に努めます。

(3) 屋外広告物条例による規制

市内の屋外広告物については、良好な景観の形成などを目的として、水戸市屋外広告物条例に基づく規制を行っています。

そのうえで、本市を代表する魅力ある眺望景観の保全を図るため、本地区について、屋上利用広告や電光装置等を用いる広告物の設置を禁止する「屋外広告物特別規制地区」に指定し、より強い規制を行っています。

今後も、水戸市屋外広告物条例に基づき、良好な眺望景観の保全に努めます。また、今後の歴史まちづくりの進捗などを踏まえながら、特別規制地区の見直しを検討します。



屋外広告物の規制を図る地区

(4) 風致地区条例による規制

本市では、7地区の風致地区を都市計画に定め、本地区については「三の丸風致地区」として指定しています。

現在、風致地区については、茨城県の風致地区条例に基づき、建築物の高さを15m以下とするなどの規制を行うことで、都市における風致の維持を図っています。

平成27年度からは、県からの権限移譲に伴い、水戸市独自の風致地区条例に基づき、地区の保全方針を踏まえた規制を行っていきます。

2 歴史的景観の形成

(1) 風格ある歴史的景観の形成

大手門、二の丸角櫓等の復元整備や道路景観整備を推進し、風格のある歴史的景観の形成を進めるとともに、整備後は、地区の歴史的景観形成を推進していくため、地区の全部又は一部に関し、水戸市都市景観条例に基づく「都市景観重点地区」の指定についても検討します。

3 歴史的資源の適切な保護、保存

地区の歴史的風致を形成する建造物や人々の活動等の歴史的資源を保護、保存するため、歴史的風致形成建造物への指定や伝統文化の育成への支援等を推進します。

第5 推進体制の充実

【基本的方向】

本基本構想に定めた施策を着実に推進し、世界遺産登録を目指すにふさわしく、魁のまち・水戸のさらなる発展のシンボルとなる、市民との協働による推進体制を整備します。

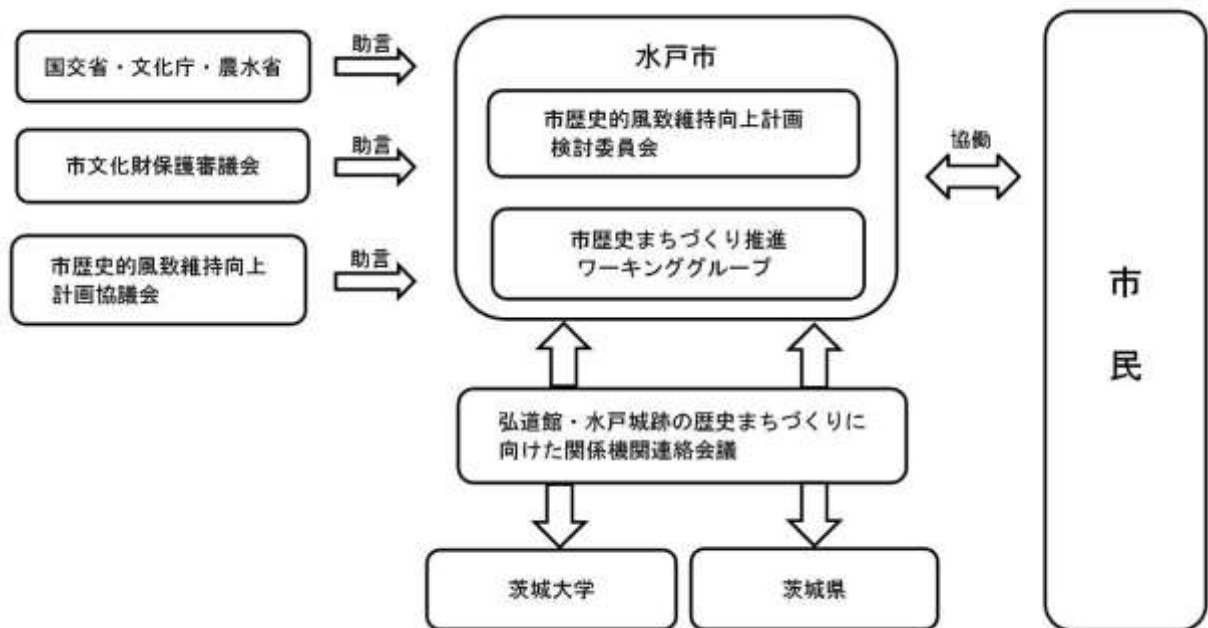
1 歴史まちづくりに向けた推進体制の方針

本基本構想の着実な推進に向け、庁内の関係各課で構成する市歴史的風致維持向上計画検討委員会等において、適切な進行管理を行います。

また、本地区の歴史まちづくりを円滑に推進するため、関係機関等で構成する連絡会議の中で、十分な協議を行います。

さらに、旧水戸城歴史的建造物の復元整備に当たっては、本地区の歴史まちづくりに向けての市民参加の気運を醸成し、市民との協働による取組を進めます。

推進体制のイメージ



地区の歴史まちづくりの整備構想

1 魅力ある歴史的建造物の復元整備



大手門 (古写真)



大手門の復元整備後のイメージ (弘道館正門から望む。)

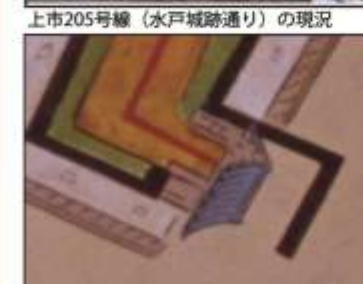


二の丸角櫓 (絵図)



二の丸角櫓の復元整備後のイメージ (水戸駅北口ペDESTリアンデッキから望む。)

2 歴史の感じられる歩行者空間の形成



4 歴史的景観の保全と形成



屋外広告物の規制



伝統文化の適切な保護保存 (北辰一刀流剣術)

5 推進体制の充実



市民との協働による復元 (熊本市の一口城主)

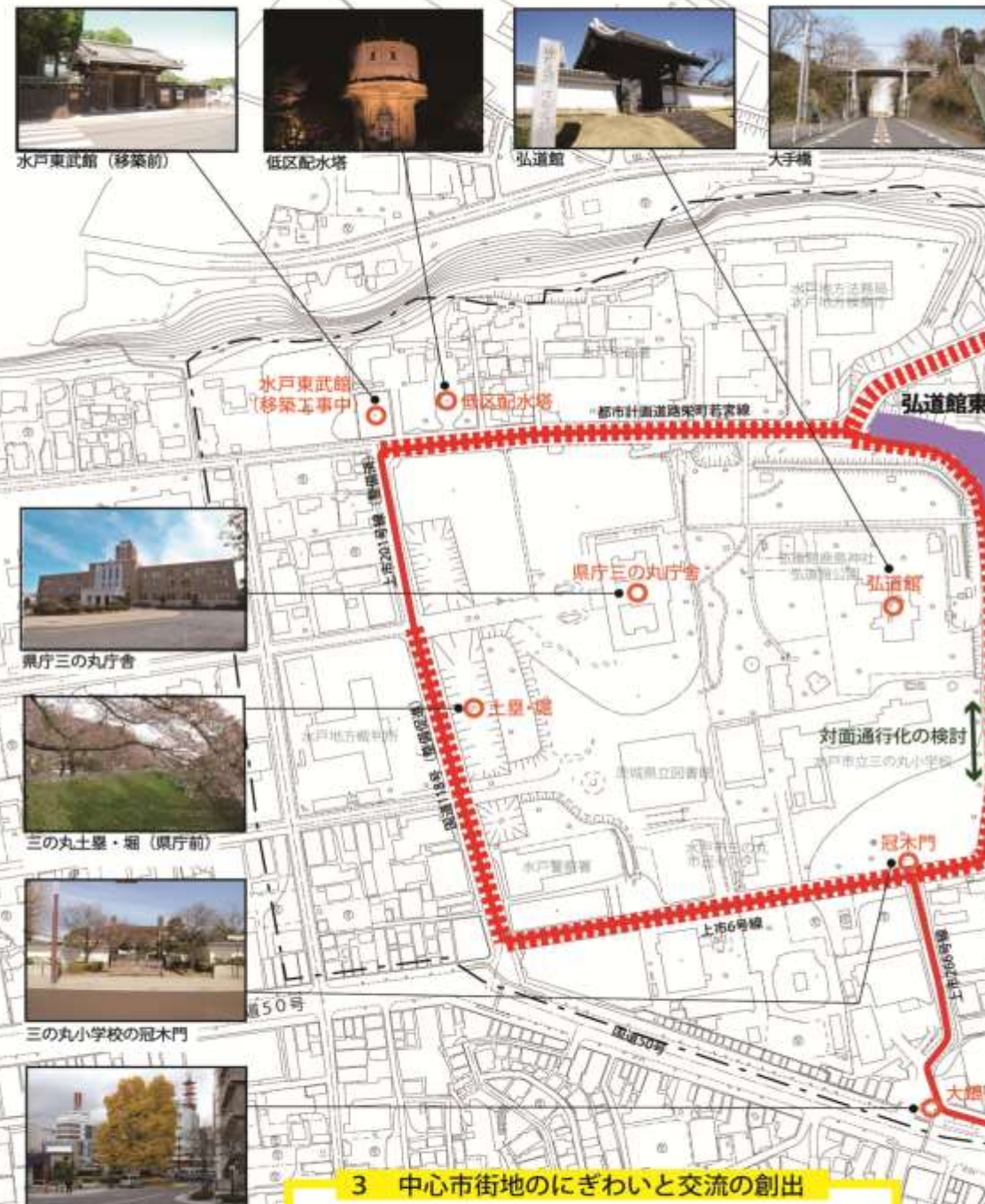
3 中心市街地のにぎわいと交流の創出



市内周遊バスの運行 (水戸の梅まつり)



ライトアップ事業の充実 (三の丸)



【参考】基本構想策定の経緯

開催日	会議・内容等
平成 25 年 4 月 25 日	平成 25 年度第 1 回弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりに向けた関係機関連絡会議開催 ・本市の歴史まちづくりに向けた取組状況について ・今後の取組（案）について
平成 25 年 6 月 6 日	平成 25 年度第 1 回水戸市歴史づくり推進ワーキンググループ開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 25 年 6 月 28 日	平成 25 年度第 2 回水戸市歴史づくり推進ワーキンググループ開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 25 年 7 月 4 日	平成 25 年第 7 回教育委員会定例会開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 25 年 7 月 10 日	平成 25 年度第 1 回水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 25 年 10 月 15 日	平成 25 年度第 2 回弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりに向けた関係機関連絡会議開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 25 年 10 月 21 日	平成 25 年度第 1 回水戸市文化財保護審議会開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 25 年 10 月 30 日	平成 25 年度第 3 回水戸市歴史づくり推進ワーキンググループ開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 25 年 11 月 27 日	平成 25 年度第 4 回水戸市歴史づくり推進ワーキンググループ開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 25 年 12 月 4 日	平成 25 年度第 1 回歴史まちづくりに係る関係課長連絡会議開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 26 年 1 月 17 日	平成 25 年度第 2 回歴史まちづくりに係る関係課長連絡会議開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 26 年 2 月 12 日	平成 25 年度第 3 回弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりに向けた関係機関連絡会議開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（素案）について
平成 26 年 2 月 21 日	平成 26 年第 3 回教育委員会定例会開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（案）について
平成 26 年 2 月 26 日	平成 25 年度第 2 回水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（案）について
平成 26 年 2 月 27 日	平成 25 年度第 2 回水戸市文化財保護審議会開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（案）について
平成 26 年 9 月 1 日	平成 26 年度第 1 回水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（案）について
平成 26 年 11 月 17 日	政策会議開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想（案）について